

# ダニエル・カールの

# 聞きたい! 消防団

第20回

## 広島県尾道市消防団

今回は東京から新幹線で約4時間をかけ、広島県尾道市を訪ねました。

尾道市消防団は、平成の大合併により、団員数が1,600名を超え、北の丘陵部から南の臨海部まで、それぞれの地域でさまざまな活動をされているそうです。

また、平成27年には総務大臣から表彰されるなど消防団員の確保に熱心であり、消防団員の

公務災害防止にも積極的に力を入れていることを聞き及んでいます。そんな尾道市消防団のさまざまな活躍などについてお尋ねしたいと思います。

それでは、尾道市消防団の池田実団長、竹田昭治副団長、太田泰嗣副団長、宮地太副団長、杉原宏一分団長、尾道市消防局の皆さんからお話を伺いましょう。



前列左から、竹田副団長、池田団長、ダニエル・カール、石井局長、宮地副団長  
後列左から、岡本警防課長、太田副団長、杉原分団長（尾道市消防局で撮影）

## 尾道市・尾道市消防団の概要について

**ダニエル** まずは尾道市の概要を教えてください。

**消防団担当** 尾道市は、瀬戸内のほぼ中央に位置し、総面積は285.11平方キロメートル、人口は140,960人（平成29年1月31日現在）で、緑豊かな北部丘陵地域から歴史文化が薫る尾道水道周辺を経て、南部の独特な多島美を有する瀬戸内海地域に至る、多彩な資源を有するまちです。昨年度に「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」として文化庁が創設した日本遺産に認定され、本年度も「芸予諸島を中心に活躍した村上海賊の歴史遺産群のストーリー」が日本遺産となり、全国で唯一、2年連続で認定をされました。

また、当市から南側の愛媛県今治市へ延びる西瀬戸自動車道は、瀬戸内しまなみ海道の愛称で親しまれ、歴史と文化にあふれる島々を橋で結ぶ全長約70キロメートルの海の道を自転車で横断できる国内唯一のサイクリングコースがあり、国内外のサイクリストの間ではサイクリングの聖地としてにぎわい、国際サイクリング大会も開催されています。



春の千光寺公園

**ダニエル** （地図を見て）北から南まで、幅広いまちなんですね。それぞれの地域ごとに消防団の活動も特色がありそうですね。続いて消

防団の概要も教えてください。

**消防団担当** 尾道市、因島市、向島町、御調町、瀬戸田町の2市3町の消防団が、平成の大合併により合併し、平成18年1月に新生尾道市消防団が誕生しました。消防団組織につきましては、1本部、8方面隊、45分団で構成され、条例定数は1,716名、実員数は1,636名（平成29年2月1日現在）となっています。

消防団本部は、団長1名、副団長13名、本部分団長8名で構成され、その中の8副団長及び8本部分団長に方面隊長、副隊長の任務を与え、方面隊内を統括し、災害時の迅速な対応及び指揮命令系統の一元化を図るとともに、消防団長の補佐役として本部付きの5人の副団長を置き、消防団の事務を円滑に処理するため、5人それぞれが総務・広報・訓練・装備・安全といった専門部会の部会長を務めています。

**ダニエル** 女性の消防団員はいらっしゃるのですか。

**池田団長** 女性の団員は、34名（平成29年2月1日現在）います。主に広報の分野で活躍しています。

**ダニエル** 消防団が合併して規模が大きくなったことをご苦労されたことはありますか。

**竹田副団長** 苦労ではないですが、やはりそれぞれの消防団がそれぞれのやり方で来ていましたから、そのいいところを取り合って今、一つの形になってきたんですけれども、合併当初はやはり温度差というのはありましたよね。例えば出動したときの費用弁償などの部分の差が相当あったんですが、それをうまく統一していったということですね。あと、地域が広くなりましたから、方面隊という形で今、動いているんですけれども、基本的に訓練したりするのも方面隊単位で訓練をする。年に何回かは

まとめて合同でやるという形になりました。

**池田団長** 地域性を生かしたというか、残した形で運営をしています。

## 災害時の活動状況及び避難対策等

**ダニエル** こちらは瀬戸内海に面しており、台風や大雨などのときは心配では？

**池田団長** そうですね。台風で怖いのは、高潮なんです。潮が上がりますので、それによって浸水する場所もありますから。

**ダニエル** 印象に残っている(台風や大雨などの)災害を教えてください。

**池田団長** 最近では昨年(平成28年)の6月に集中豪雨がありました。災害件数が2,709件あり、消防団の出動件数は111件、出動人員は延べ1,629名にもなりました。

**ダニエル** (資料を見て)1週間以上も動き放しだったんですか。大忙しだったんですね。消防団員の皆さんはどんな活動をなさったんですか。

**竹田副団長** それぞれの地域にそれぞれの最寄りの団員が出動して、土のうを積んだり、土砂や倒木を除去したりなどしました。

**ダニエル** (浸水や高潮などのときの)避難所の案内や看板などは、けっこう設置されているのですか。

**池田団長** 避難所は全て看板が上がっています。災害時は消防団もできる限り避難勧告を伝えて歩いたり、誘導したりしています。

**ダニエル** なるほど。訓練の一部として、(住民の皆さんと一緒に)「避難所に行きましょうよ」ということもやってらっしゃるんですか。

**池田団長** やっているところもあります。避難所ももちろんですが、自宅から、どの場所が危険か、ここを避けたほうが良いという確認

をしながら避難訓練をするところもあります。

**ダニエル** (浸水時の)避難マップなどは市民の皆さんの手元には？

**宮地副団長** 配布しています。各家庭にハザードマップみたいなものを配って、浸水地域はこういったところですよというのを図示しています。

**ダニエル** けっこう準備していますね。

**池田団長** そうはいいながら、やはり、地域差がありますので。この地域は本当に取組がどんどん進んでいきますが、こちらは全くできていないところがやっぱりいまだにありますね。



取材の様子

**ダニエル** 都市部になると、どうしても人が集中し過ぎて「大丈夫、どうせここまでは災害は来ないんだ」と勘違いしている人が多いんですけれども、それが災害の一番怖いところですよ。「もう来ないな」と思ったら来る。準備していないところにやってくる。(浸水時の)避難などの意識は少しずつ高まりつつあるようですが、ほかにはどのような災害が心配なんでしょうか。

**池田団長** 山火事が心配ですね。

**ダニエル** 日本は雨が多いから比較的件数が少ないと思っていましたが…

**宮地副団長** こちらの瀬戸内海沿岸は、乾燥地域です。降雨量が非常に少ない地域で、山火

事は起きやすいところです。発生件数は全国的にも多いほうだと思います。

**池田団長** 大きな火災もありました。平成16年2月には、焼損面積が390ヘクタールにも至った火事(生口島林野火災)もありました。

**ダニエル** 乾燥しやすいんだ。同じ日本なのに気候的に全然違うんですね。山火事も心配、高潮も心配、台風や集中豪雨も心配。勢ぞろいんですね。ないのは何だろう。地震はあまり来ないんですか。

**池田団長** それも分からないですね。南海トラフ地震のおそれもありますし。

**ダニエル** 大雪はどうですか？

**宮地副団長** それはないですね。

**ダニエル** 雪については、山形と比べれば、まだ序の口なんですね(笑)。

## 日々の取組

**ダニエル** 災害対策はいろいろ考えていらっしゃると思いますが、現在取り組んでいることについて、教えてください。

**池田団長** 大きな地震などがあった時のために、子どもたちを含めて自分の身を守ることや、それから家庭の中でお互いの身を守るために家具の固定の方法など、いろんなことを今、女性団員を中心にPR活動をしているので、さらに力をいれていきたいと思っています。

**ダニエル** 大震災のときも言われていましたが、まず自分のことを守れ。第2は、やっぱり本当に最寄りの人たちとか、家族の人たちとか、自分を守らないと何にもならないということですよ。

**池田団長** おっしゃるように、まず自分の命を守るのが第一なので、せめて家具は固定してください、家族を守れるようにしてください

ということをずっと言い続けているんですが、それでもいろんな先生の講演を聞くと、「自分は大丈夫」というのが(人それぞれに)あるんですよ。やっぱりどこかに。でも、分からないじゃないですか。だから、せめて自分たちが先にちゃんとやりましょうと。それをやって、さらに消防団活動をするために勉強もしましょう、訓練もしましょう。今、尾道市は消防団に対する、安全に関わるような資機材が随分配備されています。尾道市に一生懸命取り組んでいただいているので、われわれもしっかりそれに応えていこうという思いでおりますね。

**ダニエル** 勉強は、どんなことをされているのですか。

**太田副団長** 消防基金の助成・後援を受けて安全や健康管理についての研修(公務災害防止研修)を受講するなど、いろいろな研修で学んでいこうとしています。



S-KYT研修の様子

**ダニエル** 分かりました。町の人たちと一緒に訓練したりすることもありますか。

**池田団長** もちろん。防災訓練もかなり充実しています。総務省消防庁無償貸与のエアータント等を活用した応急救護所などの訓練や年始の出初式の訓練、秋にはいろいろな地域で防災訓練が行われていて、たくさんの住民の方が熱心に参加されています。海側の災害と山側の

災害は違いますので、その地域、地域に合ったものに取り組んでいければと思っています。



訓練の様子

**ダニエル** 防災意識を高めるには小さい頃からの教育がいいと思うのですが、消防団員も協力されているのですか。

**宮地副団長** 女性団員が、保育所や幼稚園などを回って防火紙芝居などを行っています。



### これからのために

**ダニエル** これから取り組んでいきたいことについて教えてください。

**池田団長** やはり団員の確保に力をいれていきたいですね。おそらく全国ほとんど全ての消防団が(団員の確保は)悩みの種だと思います。さっきも言いましたが、定数(1,716人)に満たないんです。なかなか定員にはなりません。いろんな形でPRをしていこうという思いでありますけれども、それがなかなか実らない状態

です。

**ダニエル** さきほど、消防団員を増やしたということでもらわれたという総務大臣からの感謝状(平成27年)を拝見して、すごいなと感心したところなんです。団員を増やすために、かなり広報などに力を入れられたのでは？

**池田団長** 広報活動にも力を入れています。平成28年には、9月に尾道消防フェスタ、10月に尾道市防災フェアというイベントを行いました。

**ダニエル** なるほど。



尾道消防フェスタの様子

**池田団長** しかし、(団員確保で一番大きいのは)やっぱり団員一人ずつの勧誘なんですね。団員が団員を勧誘するという。それで一生懸命取り組んで、1年間で41名入団したということで総務大臣から感謝状をいただきました。ただ、そのまま維持できればいいんですが、年齢も高くなりますので、やはりまた辞めていく団員もおります。辞めていった団員の部分だけでも何とか補充をという思いではいるのですが、これもなかなか難しい問題ですね。

**ダニエル** なるほど。

**池田団長** 消防団の役割はいろいろあります。災害現場で火事を消すだけでもないし、水害に出ていくだけでもありません。学生の方や女性の方など皆さんの力を借りられるように、

機能別団員についても取り入れられないか考えているところです。今、消防団は、実動はもちろんですが、予防活動も相当大切だと思っています。特に女性の力を借りたいと思っています。今年広島県で全国女性消防団員活性化大会が開催される予定ですし、ぜひとも今の34名が100名ぐらいにならないかなという思いで、いろんな活動をしています。

**ダニエル** 全国的に若い人がなかなか入ってくれないという傾向はありますよね。お父さんがやったら息子は必ずやるとか、そういう、いわゆる伝統的なやり方というか習慣もちょっと崩れようとしているところなんですよ。だから、どうやって若い人にその魅力を知らせるか。子どものころにいろいろな体験をしてもらったり。例えば、法被を着てもらって一緒にパレードに参加したとか。もしかしたらその中から消防団員になってくれる人が出てくるかもしれないですよ。私は消防士の息子ですが、やっぱり子どものころから憧れていました。消

防士になろうかなと思っていたのですが、高校の間に一回、日本に留学して、それで人生がころっと変わりました、いつの間にか山形弁研究者になってしまいました(笑)。消防士になる夢がどこへ行っちゃったんだろうという感じです。でも、やっぱりいまだに消防に関心は高いです。これからも、ぜひとも応援させてください。

**消防団の皆さん** ありがとうございます。

### 対談を終えて

尾道といえば、ラーメンという印象が強かったのですが、今回、たくさんの魅力を教えていただきました。ぜひもう一度来てゆっくりと観光させていただきたいですね。

山の災害、海の災害と心配事が多いと思いますが、皆さんのすばらしいふるさとをこれからも守って行ってください。

尾道市消防団の皆さんのいっそうのご活躍をお祈りいたします。(ダニエル・カール)

